

第1回 学校教育制度に関する懇談会（概要）

日 時 平成18年10月5日（木） 午後3時～5時

会 場 宇都宮市教育センター501, 502 研修室

出席者

懇談会委員：太田委員，神長委員，中村委員，小林（真）委員，麦倉委員，菊池委員，大矢委員，塚田委員，轟蒔委員，鈴木委員，内海委員，林委員，石嶋委員，小林（修）委員，山市委員，古沢委員，南木委員，山本委員，野田委員，田代委員

事 務 局：教育長，教育次長（学校担当），教育企画課長，学校教育課長，学校健康課長，生涯学習課長，教育センター所長，教育企画課長補佐，教育企画課総務担当副主幹，学校管理課長補佐，教育企画課企画係長，事務局職員

傍聴者 4名

会議経過

1 開会

2 教育長あいさつ

3 委員・事務局紹介

4 議題

(1)会長・副会長の選出について

互選により太田委員を会長に，南木委員を副会長に選出

(2)会議の公開について

本懇談会を原則公開にすることを決定

(3)懇談会における主な検討内容及びスケジュールについて

(4)本市小中学校教育制度について

1 小中学校教育制度に関する計画の構成イメージ

2 小中学校教育制度に係る現状と課題

3 小中学校における新たな教育制度

5 その他

委員からの主な意見・質問等（要旨）

4(4)1 小中学校教育制度に関する計画の構成イメージ

山市委員：小中学校共通の制度だけでなく，小学校，中学校それぞれの制度を検討する視点も必要ではないか。

事 務 局：そのような視点も入れて検討を進めていく。

林 委 員：幼稚園，保育園，高校との連携も考える必要がある。小中という枠に厳格にとらわれることなく，提案等に入れてほしい。

神長委員：家庭・地域の教育力向上を図る上でも，幼稚園と小中学校との連携を強化していく必要がある。

古沢委員：97%は高校に進学する現状から，中高の連携も視野に入れて協議していくべきである。

内海委員：組織を考える時には，ビジョンが必要であることから，宇都宮の教育の目指すビジョンを明確にしてから，その実現に向けて現状と課題を洗い出していくほうがよいのではないか。

太田会長：(4)3の「小中学校における新たな教育制度」から議論を始めたほうがよいという提案であると受け止める。様々なアプローチの方法が考えられるが，今回は事務局提案の方法で検討していきたい。

4(4)2 小中学校教育制度に係る現状と課題

中村委員：P4外国人登録者数が増加しているが，おそらく英語圏ではないであろう。実態から考えれば，ポルトガル語なども必要であると考えますが，英語教育に焦点化した理由が明らかになるといい。また，P6中途退学のデータがあれば，勤労観や職業観との関連を明らかにするために，有効である。その中に学校教育制度の抱えてる大きな問題が隠れていると考える。

事務局：データは県教委と連携で作成し，次回に提出する。本市の外国籍の児童生徒の対応については，日本語が話せない場合，言語の専門家を拠点校に配置し，ケアを十分に行いながら，教室での交流を可能にし教育を展開している。現状については，次回資料を提出する。

小林(真)委員：P16 研究開発校とは，小規模特認校のことを指すのか。

事務局：小規模特認校は，複式学級解消のため，学区を自由化し学習指導要領によらない会話科を実施した学校である。研究開発校は，本市の実情にあった研究を進め，その成果を全市に反映していく学校である。

林委員：宇都宮市の教員数や，一人の教員の年間時数など教員の実態が明確になれば，学校教育制度の改革の視点の一つになる。

内海委員：P6 データをもって職業生活の基礎となる職業観，勤労観に結びつくのか。

事務局：記載のデータだけではなく，小中学校の教員等の意見も聞き，現状より課題を導き出している。

太田会長：キャリア教育は小さいころから必要であると認識している。

塚田委員：P17 学校評議員制度は機能していなかったが，現在実施している魅力ある学校づくり地域協議会について説明してほしい。

事務局：学校運営に意見をいただくだけではなく，支援も含めて，地域と保護者とともに学校を作っていくものである。

靄蒔委員：学校評議員や魅力ある学校づくり地域協議会の一員として参加しているが，

どのように教育に反映されているのかがダイレクトに伝わってこない。自分たちが担う地域教育と学校教育が効果的に融合されるしくみを考えていかなければならない。

麦倉委員：P9中1において、学力が低下する原因をどうとらえているか。

学校教育課長：数学などは文字式の内容など難易度が上がるためつまづきが生じる。

また、担任が変わるなどの不安感も一因としてある。

麦倉委員：資料のデータ（意識調査など）の抽出方法を参考までに教えてほしい。

事務局：ランダムサンプリングで統計上の問題のないサンプル数2,000件弱である。

林委員：P6進学率は短大、専門学校を含めると74%ではないか。

学力の二極化の要因として経済格差などを挙げているが、学力向上に効果的なのは読書だと思う。市の実態（読書量、図書館の状況等）について教えてほしい。

事務局：次回確認し、報告する。

林委員：今懇談会においてマネジメント（校長、教員の任用等）まで踏み込んでいいのか。

事務局：人事権移譲に伴い、別組織で検討していく。

神長委員：幼少、中高連携などの議論を深めるために、就学前教育の検討資料として、宇都宮市の実態、事例（小1プロブレムなど）、幼保の割合など話し合いの手がかりがあればいいと思う。

4(4)3 小中学校における新たな教育制度

事務局説明のみ

5 その他

次回日程調整 平成18年12月21日（水）午後2時～開催予定